


# ウイルス学はニセ科学

ウイルス学とは、科学のフリをした詐欺  
あるいは手品でしかない  
科学の要件を満たしていない



# 大前提

- 何かを主張する者に、その証明責任がある
- ウイルス(病原性のRNA粒子)の存在を主張する一方、ウイルス学者はそれを証明できない。その提出する「証明」なるものは、いずれも科学的検証に耐えられるものではない。
- ウイルスを否定する者が、「無いことを証明しなければならない」のではない。それは「悪魔の証明」。
- したがって、ウイルスなど存在しないし、「存在しない」と主張して良い。



「存在が証明できないからと言って、  
無いとは限らないじゃないか」

は通用しない

# 「ウイルス」という言葉の定義

- 言葉を曖昧にする人もいる
  - 電子顕微鏡サイズのRNA粒子一般を「ウイルス」と呼んでしまう人がいる。これらは、生体にとって有用な場合さえある。
  - ここで問題なのは、「人間の病気の原因になるRNA粒子」のこと。こちらを狭義のウイルス、ごく普通のウイルスの定義とする。

そもそもVirusとは、ラテン語で「毒」「有毒物質」のこと  
無害な物質をウイルスと呼ぶのは誤り





# ウイルス学というニセ科学の成立過程

# 光学顕微鏡以前

- 病気とは、人智の及ばない神や悪霊の仕業と考えられていた。当然、治療方法も非科学的なものだった。

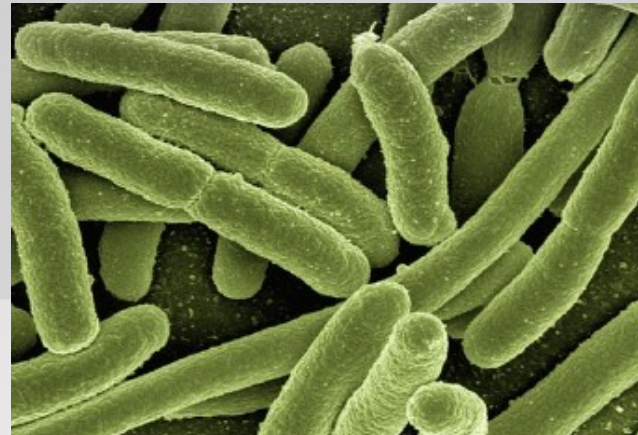




# 光学顕微鏡以後「バクテリアが犯人」説

- 病人の組織を見たら、死んだ細胞のまわりにバクテリアがたかっていた→こいつが犯人
- バクテリアは腐生性で、死んだ組織を分解して代謝させる重要な役割。人間の細胞数を超える数が存在する

火事場にいつもいるから  
消防士が放火犯人説



# ちなみに、いかなるバクテリアも 病気の原因ではない

- コッホ原則（後述）を満たしたことはない
  - －したがって、病気の原因と決定的に証明されたことはない
  - －あると主張する者もいるが、ウソ
- 「本当は何があなたを病気にするのか？」参照





# もっと小さい悪いやつがいるはず説

- すべての病気をバクテリアのせいにはできなかった
- 「もっと小さい悪いやつがいるはず」  
→見たこともない「ウイルス」を研究する「ウイルス学」が成立

古代からの病気に関する信念と  
あまり変わっていない



# 「ユニコーン学」に例えると。。。。

- 見たこと無いけどユニコーンは**いるはずだ！**  
→ユニコーン学の成立
- 「ユニコーン学者」が、あの手この手のニセ科学を使い、「ユニコーンの証明」を提示。
- その行うことすべては、「ユニコーン」無しで成立するものばかり。科学的検証に耐えるものではない
- ところが。。。。



# 「ウイルス学」が栄華を極める理由

- ・人々を脅して製薬業界の製品を「自ら進んで喜んで買ってもらう」のに都合が良かった、それも国家レベルで

ウイルス学は  
「お薬詐欺」の道具

- ・毒ワクチン
- ・抗ウイルス薬
- ・様々なニセ検査





ウイルスを「分離」しました！

という話

# 細菌論にとって分離は最重要事項

- 分離：病気の原因かもしれないバクテリア・ウイルスだけを取り出す。他すべての物から引き離す。
- その純粋な状態のものを使って感染・発症実験を行うことにより、初めて「他ならぬこの物質が、病気を引き起こしている！」ことを確認できる。
- 他と混ざった状態では、確認できるはずもない。





これが病気の原因と  
の仮説があるなら、こ  
れだけを取り出さなけ  
れば。  
他の物が病気の原因  
かもしれない。



# 「分離 (isolation)」という言葉の定義

- Merriam-Webster辞書
  - : to select from among others
  - especially : to separate from another substance so as to obtain pure or in a free state
- 他の中から選択する
- 特に：純粋な、または自由な状態を得るために、他の物質から分ける (separate) こと。





- 広辞苑オンライン
  - － わかれること。わけはなすこと。
- goo国語辞書
  - － 1 分かれて離れること。また、分けて離すこと。「ドレッシングの油がーする」「中央一帯」「政教ー」
  - － 2 結晶・昇華・蒸留などにより、ある物質を分けて取り出すこと。



# ニセ科学ウイルス学は。。。

- 「分離（isolation）」という言葉が好き勝手な意味に再定義して大衆を騙している  
→ウイルス学というニセ科学詐欺の**真髓**の一つ
- ウイルス学者は、そのことを重々知りつつも素知らぬふりで「分離」という言葉を使っている  
→「ウイルス学者」と呼ばれる詐欺師を特徴づけるものの一つ

# ウイルスを分離 (isolate) したんだという

• 2020/1/31



NIID 国立感染症研究所  
NATIONAL INSTITUTE OF INFECTIOUS DISEASES

文字の大きさ 標準 大きく

検索...

ホーム

研究所の概要

所長挨拶

アクセス

関連リンク

お問い合わせ

メンテナンス

記事一覧

日本語 ENGLISH

お知らせ

採用情報

調達情報

情報公開

公開講座・研修

その他

感染症情報

疾患名で探す

感染源や特徴で探す

予防接種情報

災害と感染症

大規模イベントと感染症

研究・検査・病原体管理

研究情報

細菌学

ウイルス学

寄生虫学

## 新型コロナウイルス：国立感染症研究所が開発した細胞で分離に成功

印刷

PUBLISHED: 2020年1月31日

参照数: 336766

国立感染症研究所ウイルス第三部で、新型コロナウイルスの分離に成功しました(図1)。使用した細胞はVeroE6/TMPRSS2細胞 (TMPRSS2というプロテアーゼを発現している) です。臨床検体を接種後、細胞の形状変化を観察し、多核巨細胞の出現を捉えました。

細胞上清中のウイルスゲノムを抽出して、ほぼ全長のウイルスゲノムの配列を確定しました。これは、**最初に発表されたウイルスの遺伝子配列**と99.9%の相同性がありました。

分離したウイルスを用いて、ウイルス感染機構及び病原性の解析、ウイルス検査法・抗ウイルス薬・ワクチンなどの開発を進める予定です。また、新型コロナウイルス対策に役立てるため、ウイルスと細胞は国内外に広く配布する予定です。

以下の写真は、「[感染症 画像・映像アーカイブ](#)」の記事で一般に配布しております。



研究情報更新履歴

機械学習によって明らかとなったレプトスピラ病原体の細胞接着と細胞上での運動の逆相関関係  
2023/12/07

ポータブル機器による環境表面新型コロナウイルス迅速高感度検出法  
2023/10/05

BA.5オミクロン亜種への再感染に対する既感染とワクチン接種の防御効果：日本全国の集団ベースの研究  
2023/09/25

膜融合型構造のインフルエンザヘマグルチニンに特異的な新規交差防御抗体の構造学的解析  
2023/08/24

HTLV-1潜伏感染カニクザルにおけるモノクローナル抗CD8抗体投与によるCD8陽性細胞枯渇によるHTLV-1増殖  
2023/08/22

アトパコン、メフロキンおよびモルヌピラビルの抗エムボックスウイルス活性と治療薬としての可能性  
2023/07/28

エムボックスウイルス創薬標的としてのイノシンーリン酸デヒドロゲナーゼ  
2023/07/28

# これが新型コロナウイルスの姿だという

- 新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真

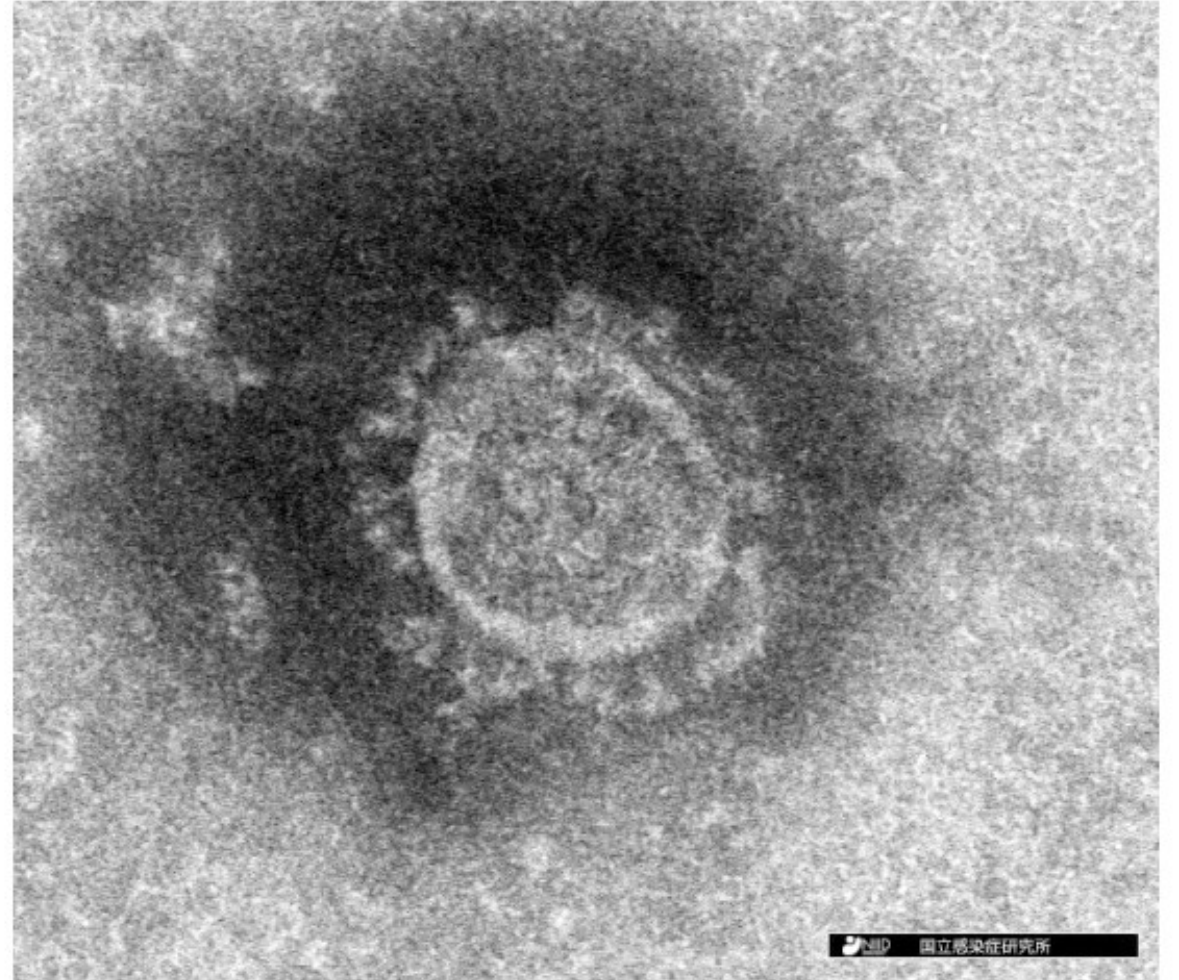


図 1：当研究所で分離された新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真像。粒状の粒子の上にコロナウイルス特有の冠状のスパイクタンパク質が観察できます。

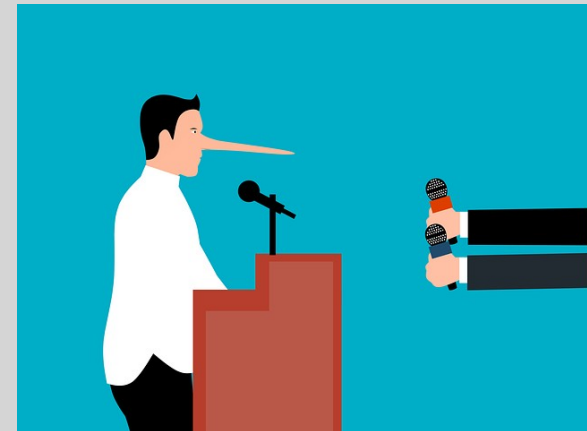


# 最初の論文で発表されたウイルスと ほぼ同じゲノム（遺伝子）配列だという

- 「細胞上清中のウイルスゲノムを抽出して、ほぼ全長のウイルスゲノムの配列を確定しました。これは、最初に発表されたウイルスの遺伝子配列と99.9%の相同性がありました。」



全くのウソ  
コロナどころか  
すべてのウイルスについて  
「分離」などされてません  
人類史上一度もです




# しかし、ちなみに。。。。

- 宮沢孝幸は、「他では分離してないけど、自分の研究室では新型コロナを分離した」と主張している。しかし、論文にはしていないと言う。
  - ー ただし、その手法を見れば、分離などとはとても言えない。
  - ー 「他は分離していない」のだから、国立感染研や他の論文はウソと非難せねばならないが、そんなことはしない。







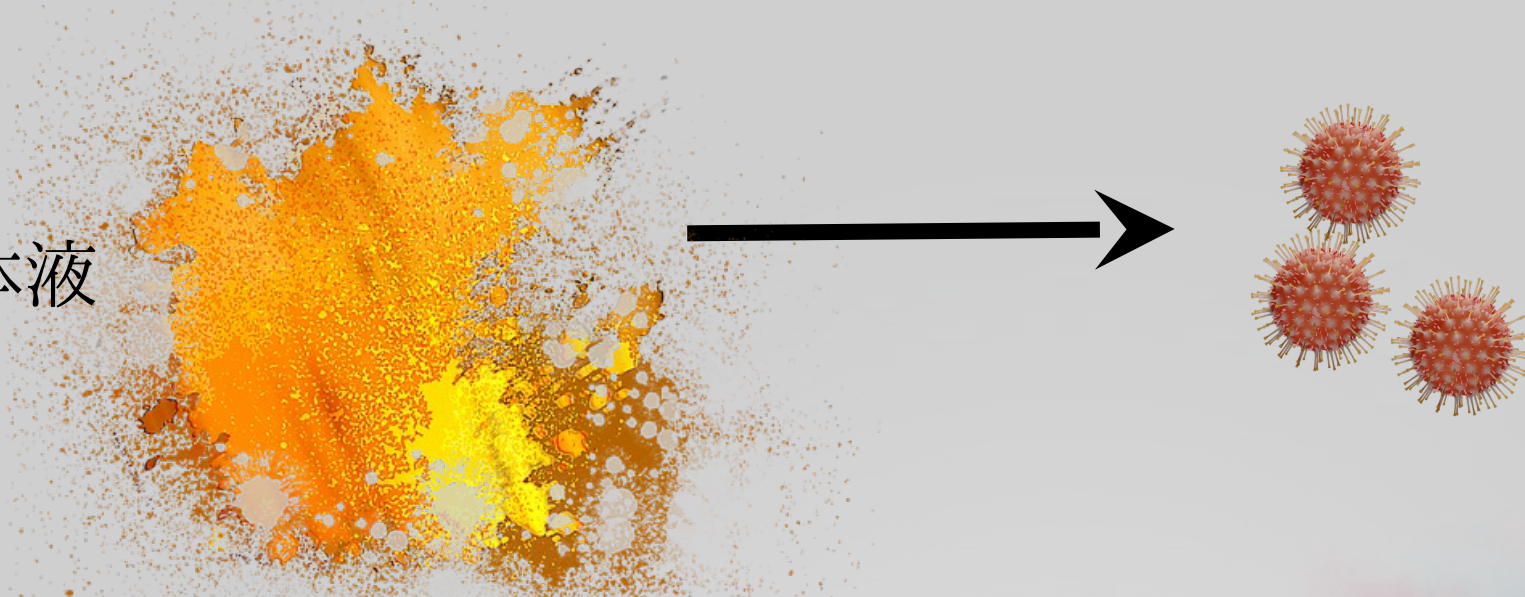
ウイルス学を「詐欺」と呼べる理由の一つ  
「分離」とは、ウイルス学では「混合」の  
こと。まるで逆の意味。

実際には研究室ごとに分離の意味が若干異  
なったりもする

# 本来の「分離 (Isolate) 」とは？

- 本来は、患者の体液に含まれる他すべてのものから引き離して、ウイルスだけを得ること

患者の体液

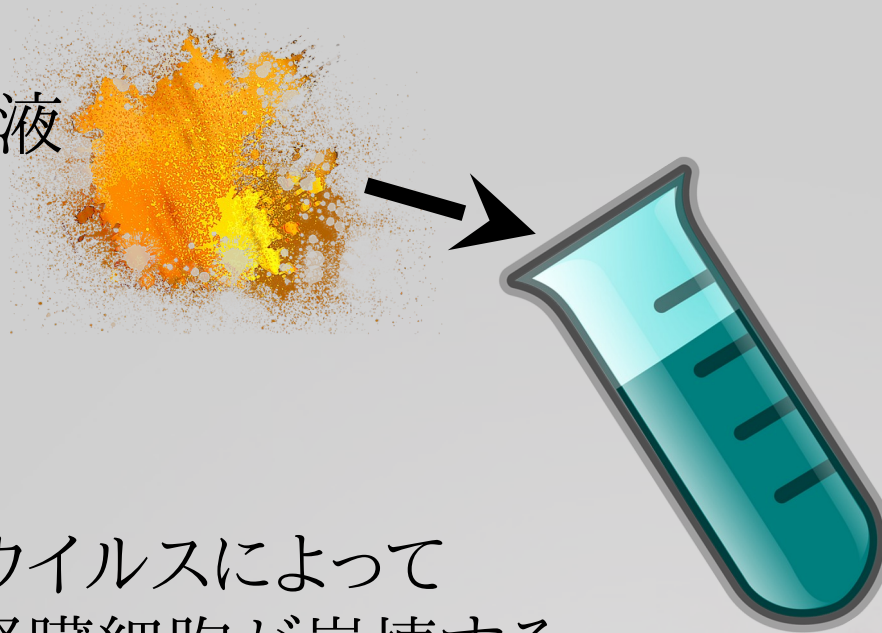


ウイルス学者はそんなことしません  
これまで一度もしたことがありません

# ウイルス学者のやってる「分離」

- 患者の体液を「培地」に混ぜます  
ーつまり、分離とは逆の混合をします

患者の体液

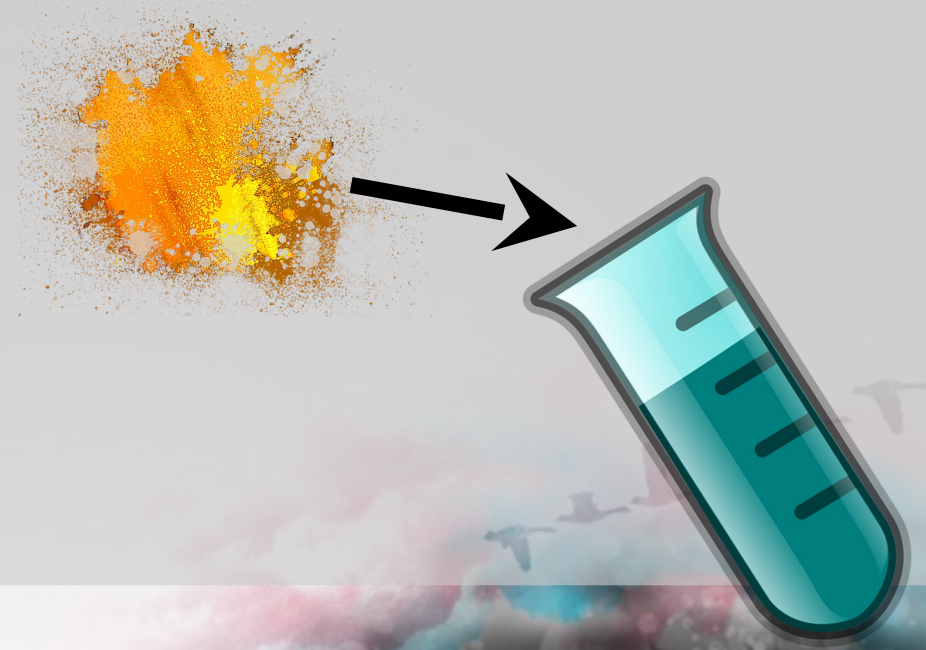


抗生物質  
サルの腎臓細胞  
牛の血清  
などなど

すると、ウイルスによって  
サルの腎臓細胞が崩壊する

# なんでわざわざ混ぜるのか？

- ウイルスの働きによって、「サルの腎臓細胞」が崩壊するのを見るため（細胞変性効果）
- 患者の体液では、ウイルス数が少なすぎるので、この細胞を使って培養するため



# どう考えてもおかしい「ウイルス培養」

- 人間のくしゃみには、2億ものウイルスがあり、それが他者に感染させるというのに
- ウイルスにとって最適な培地の肺からとった体液には、発見できる十分な数のウイルスがないという
- しかも、人間の肺では培養できないんだという
- だから、どういうわけかサルの腎臓細胞を使って培養しないと、ウイルスが見つからないという

くしゃみに豊富に含まれるウイルスが  
肺の液体では見つからないという不思議





# 「サルの腎臓細胞」の理由

- 実際には、ただの腎臓細胞ではなく、ベロ細胞と呼ばれる特殊な細胞で、崩壊しやすい
  - － 異数性という、染色体異常を持つ細胞
- 他のどんな細胞を使っても、崩壊しなかった。だから「ウイルス学者」は、これを好んで使用している

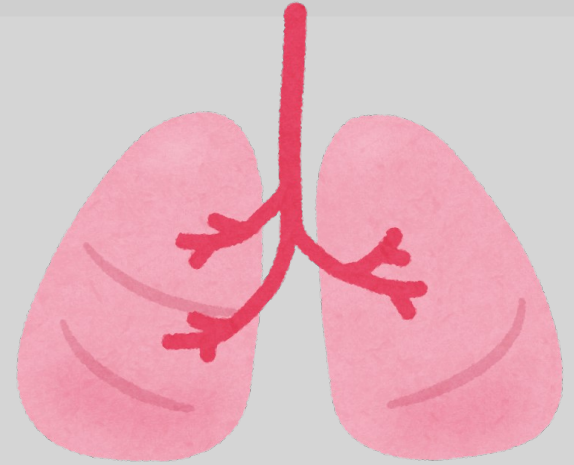
人間の呼吸器系のウイルスなのに  
なぜか試験管の中では人間の肺細胞を  
崩壊させない不思議

# ウイルス学詐欺のトンデモ言い訳



人間の肺液には十分な数のウイルスがおらず、発見できない。一方、くしゃみには2億のウイルスが含まれ、感染するのだという。

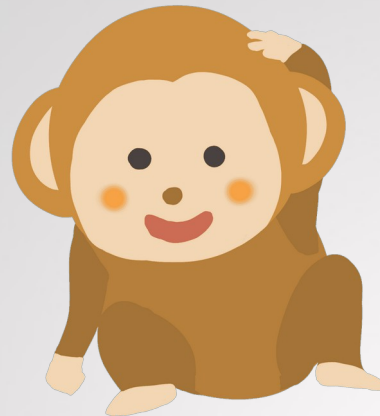
でも



人間の肺細胞ではウイルスは増殖しない(ウイルスによって細胞が崩壊しない。細胞変性効果が現れない)

だから

サルの腎臓細胞、しかも染色体異常のものを使って培養する。細胞が崩壊し、ウイルスが発見できるようになる!





- なんで分離するのに細胞が必要???



NIID 国立感染症研究所

NATIONAL INSTITUTE OF INFECTIOUS DISEASES

文字の大きさ

標準

大きく

ホーム

研究所の概要

所長挨拶

アクセス

関連リンク

お問い合わせ

メンテナンス

記事一覧

日本語

ENGLISH

お知らせ

採用情報

調達情報

情報公開

公開講座・研修

その他

感染症情報

疾患名で探す

感染源や特徴で探す

予防接種情報

災害と感染症

大規模イベントと感染症

研究・検査・病原体管理

研究情報

細菌学

ウイルス学

寄生虫学

新型コロナウイルス：国立感染症研究所が開発した細胞で分離に成功

印刷

PUBLISHED: 2020年1月31日

参照数: 336766

国立感染症研究所ウイルス第三部で、新型コロナウイルスの分離に成功しました(図 1)。使用した細胞はVeroE6/TMPRSS2細胞 (TMPRSS2というプロテアーゼを発現している) です。臨床検体を接種後、細胞の形状変化を観察し、多核巨細胞の出現を捉えました。

細胞上清中のウイルスゲノムを抽出して、ほぼ全長のウイルスゲノムの配列を確定しました。これは、**最初に発表されたウイルスの遺伝子配列**と99.9%の相同性がありました。

分離したウイルスを用いて、ウイルス感染機構及び病原性の解析、ウイルス検査法・抗ウイルス薬・ワクチンなどの開発を進める予定です。また、新型コロナウイルス対策に役立てるため、ウイルスと細胞は国内外に広く配布する予定です。

以下の写真は、「[感染症 画像・映像アーカイブ](#)」の記事で一般に配布しております。



研究情報更新履歴

機械学習によって明らかとなったレプトスピラ症病原体の細胞接着と細胞上での運動の逆相関関係

2023/12/07

ポータブル機器による環境表面新型コロナウイルス迅速高感度検出法

2023/10/05

BA.5オミクロン亜種への再感染に対する既感染とワクチン接種の防御効果：日本全国の集団ベースの研究

2023/09/25

膜融合型構造のインフルエンザヘマグルチニンに特異的な新規交差防御抗体の構造学的解析

2023/08/24

HTLV-1潜伏感染カニクイザルにおけるモノクローナル抗CD8抗体投与によるCD8陽性細胞枯渇によるHTLV-1増殖

2023/08/22

アトパコン、メフロキンおよびモルヌピラビルの抗エムボックスウイルス活性と治療薬としての可能性

2023/07/28

エムボックスウイルス創薬標的としてのイノシナーリン酸デヒドロゲナーゼ

2023/07/28



# ウイルスの写真

# 次に「ウイルスの姿」を撮影！

- 混合物を電子顕微鏡にかける
- ごちゃごちゃの状態の中から「これがウイルスに違いない！」と撮影

無根拠インチキ写真  
実際には何だかわからない

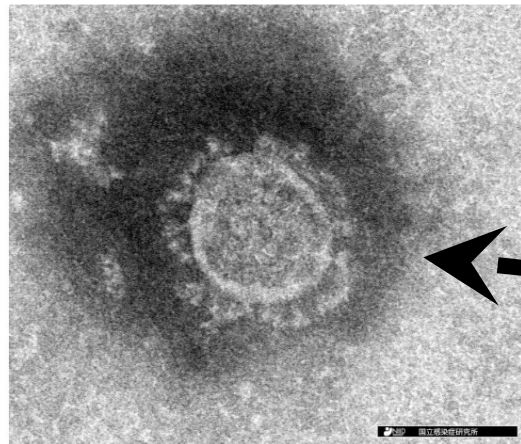
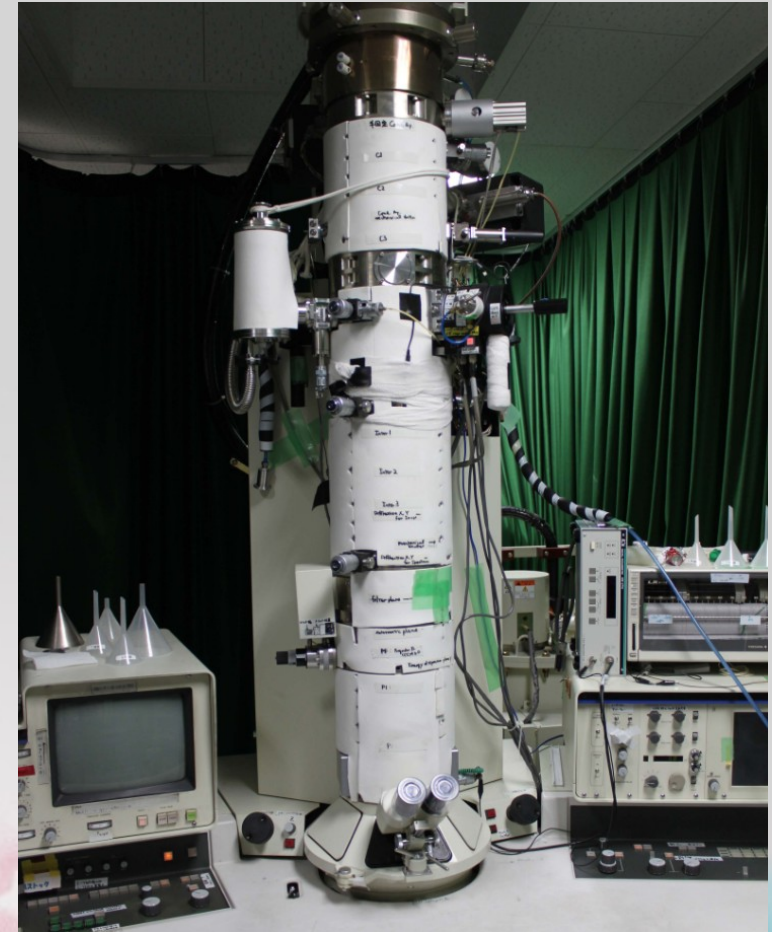
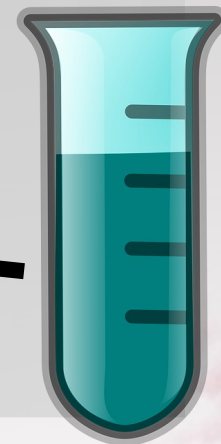


図1：当研究所で分離された新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真像。粒状の粒子の上にコロナウイルス特有の冠状のスパイクタンパク質が観察できます。



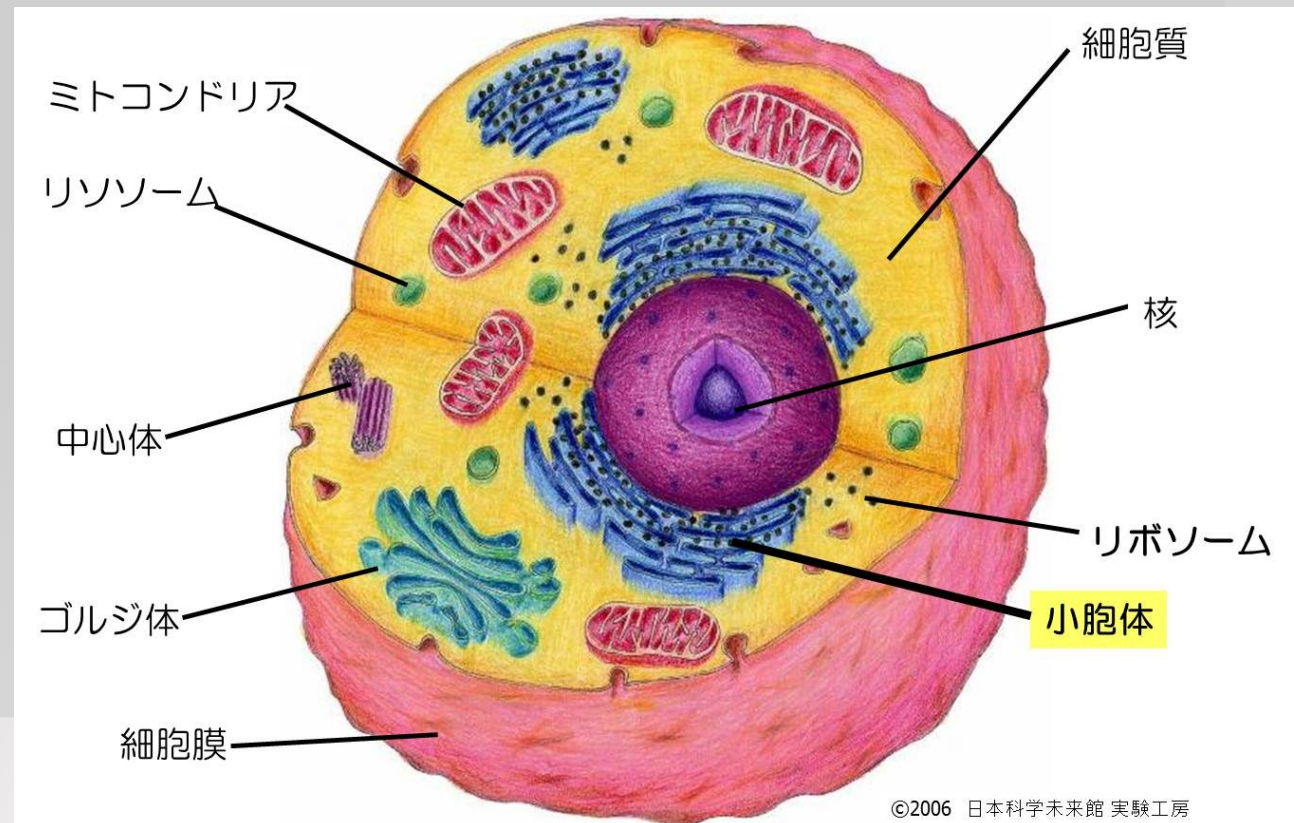


# しかも、ウイルス学者は 「準備手順」の影響を知らない

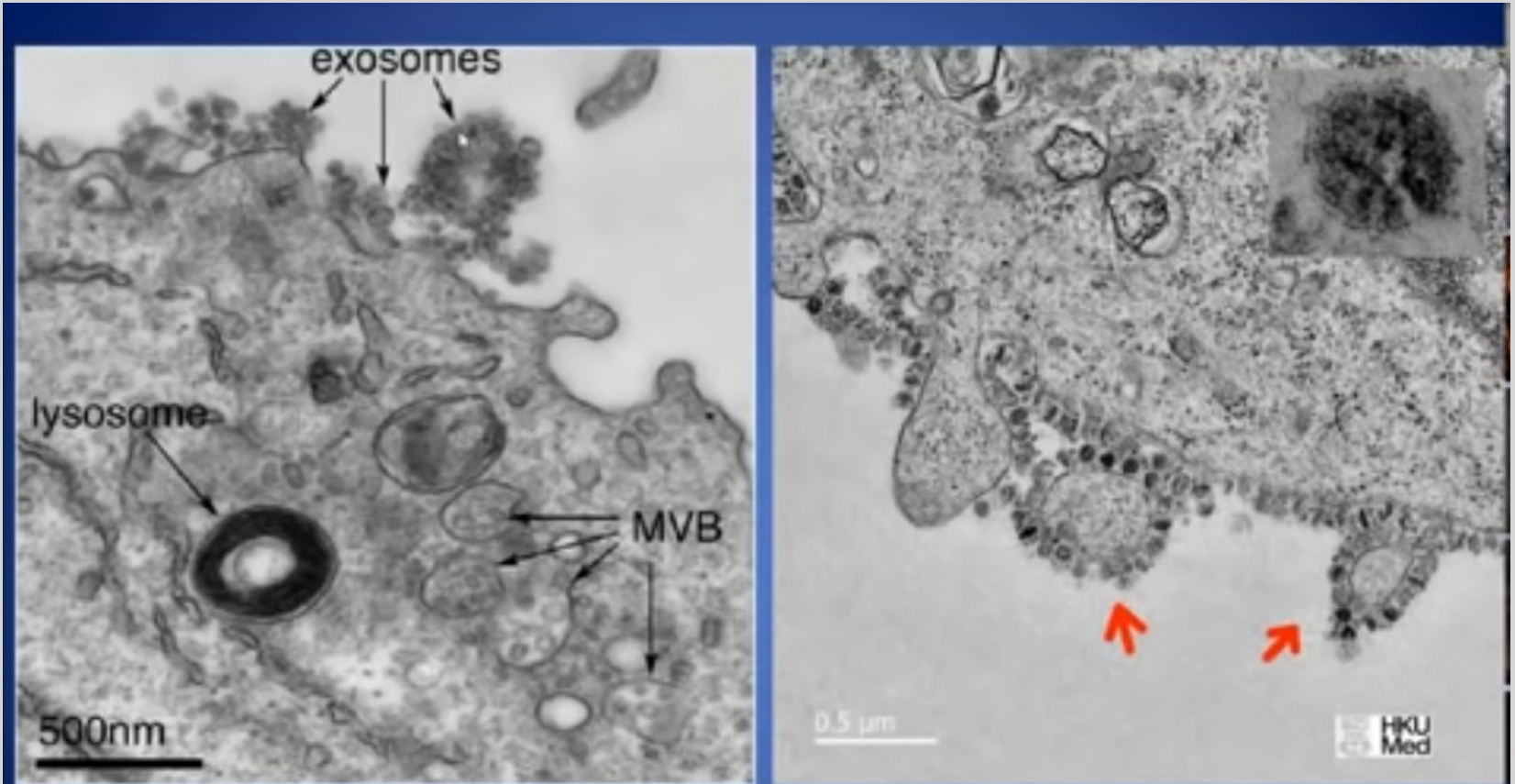
- 電子顕微鏡での観察では、事前に様々な処置が施され、生体とは似ても似つかないものになる。
- 「組織が組織学、組織化学、電子顕微鏡、免疫化学のために準備されるとき、動物が殺され、組織は切り取られ、固定または凍結され、（訳注：何か別の物質に）埋め込まれ、切り取られ、再水和され、染色され、取り付けられ、光が放射され、または電子ビームが照射される」 ハロルド・ヒルマン博士
- 「彼らが検出した見かけ上の構造のほとんどは、その準備手順による人工物である」 ヒルマン博士

# ハロルド・ヒルマン博士が特定したこと

- 電子顕微鏡下でのウイルス観察の準備手順で発生する人工物の一つが小胞体であったことだ。



# 「ウイルスの姿」は エクソソーム（細胞外小胞）という説も



Exosomes

COVID-19

- エクソソームとは、臓器間のコミュニケーションを行う物質であると、科学的に認められており、本来の意味の「分離」もされている

NHK

健康ch

NHK健康チャンネルで確かな医療・健康情報を

病名・症状・身体の部位から探す

人気記事から探す

医師・専門家

病気Q&A

番組

NHKトップ > NHK健康トップ > テーマから探す > 人体（NHKスペシャル） > 健康を支える「エクソソーム」とは？その働きと効果、病気との関連性

## 健康を支える「エクソソーム」とは？その働きと効果、病気との関連性

更新日 2021年11月15日

人体（NHKスペシャル）

臓器同士が"メッセージ物質"を使ったやりとりをしていることがわかってきましたが、近年注目されているのが「エクソソーム」と呼ばれる"メッセージ物質"です。従来のものと異なる「ある特徴」があり、それを活かした治療などへの応用研究が進んでいます。



# 植物にもこのような仕組みがある： 害虫に食べられると化学物質を放出し、仲間に知らせる



# 「ウイルスと同じような大きさ」の エクソソームは分離され、研究されている

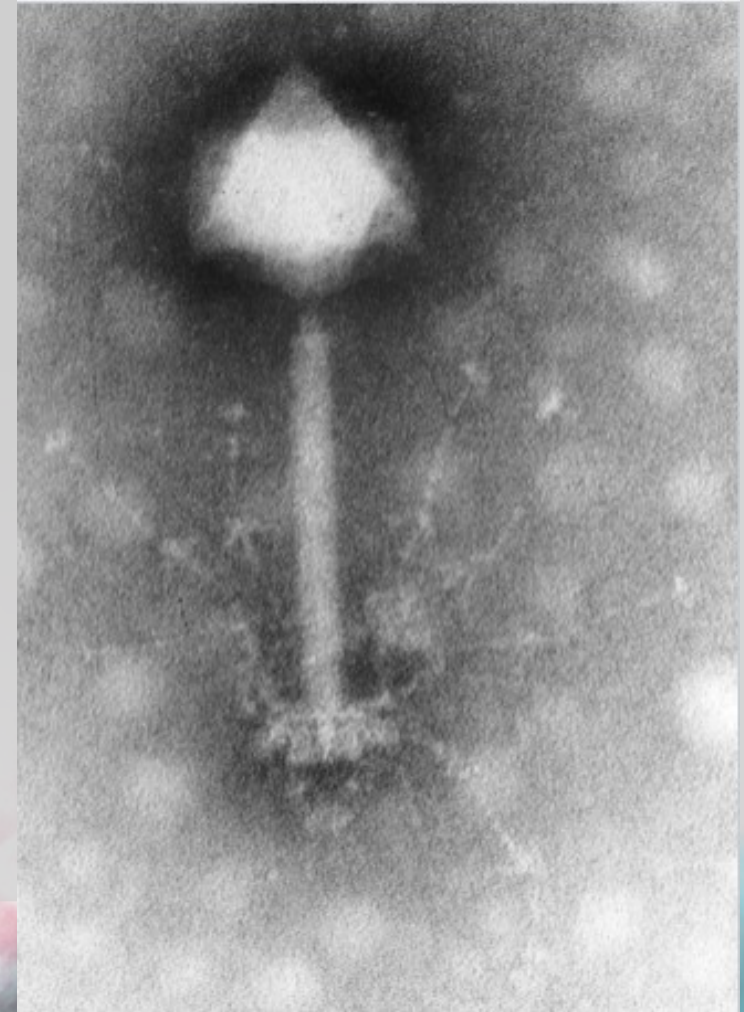
- 感染性粒子ではないことが認められている



# ウイルスと同じような大きさの バクテリオファージも分離され、研究されている

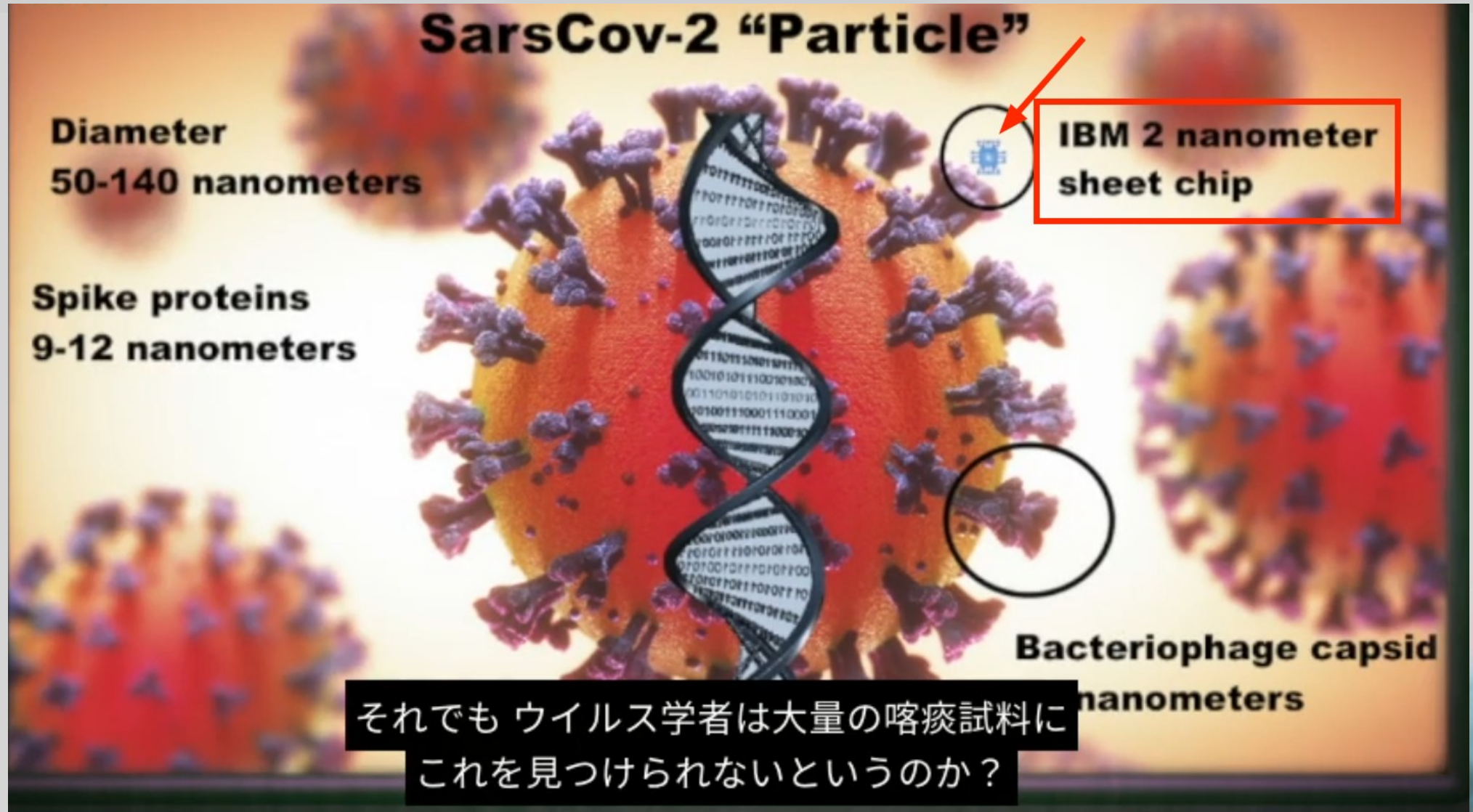
- バクテリアにとりついて殺すウイルス
- 人間に影響が無いことも認められている

バクテリオファージの存在は、  
「ウイルス無い派」も認めている事実





# IBMはこの大きさのチップを製造



# これほどのナノテクノロジーがあるのに

- ウィルス学者は、ウィルス自体を得たことがない  
本来の意味の分離をしたことがない
- 肺から直接得るつもりもない。必ず、異常な細胞に混合
- 写真を撮影しても、それが「ウィルス」という根拠は示せない
- 実際に、小胞体やエクソソーム（細胞外小胞）との指摘

ウィルス自体を取得しないのは、不都合なことがあるから  
としか考えられない



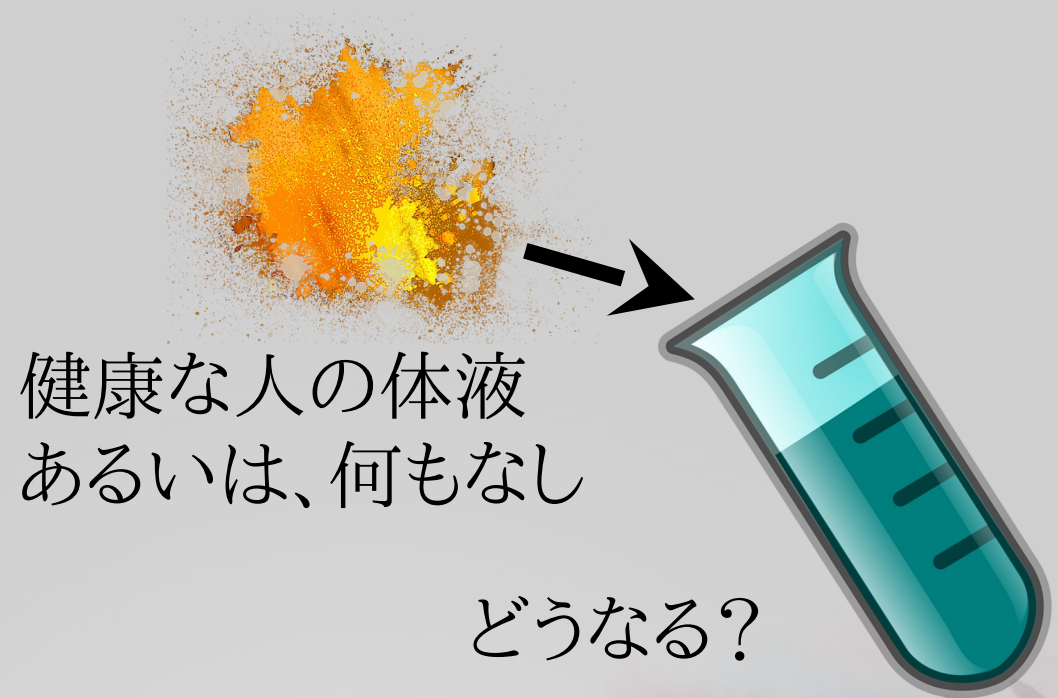
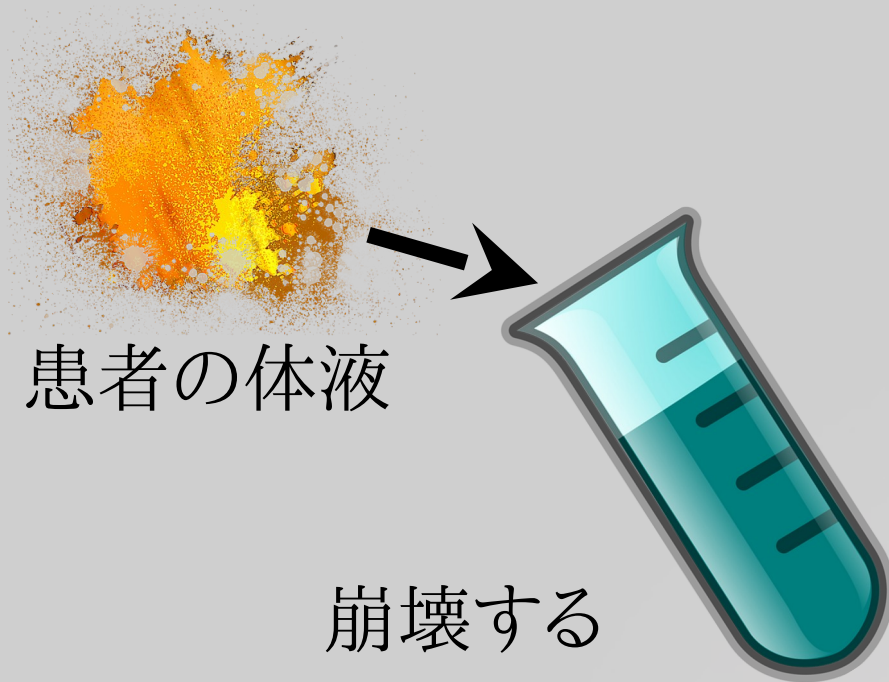


# ウイルス学者は、分離の（比較）対照実験をしたことがない

対照実験の無いものは、科学とは言えない

# サルの腎臓細胞が崩壊したのは 本当にウイルスによるものなのか？

- 真っ当な科学では、対照実験が必要



これら二つの結果はどう違うのか？

# ウイルス学は、科学としての基本の こんなこともやらない

- 人類史上、対照実験が行われたのは二例だけ！
  - － 一例目：1954年のエンダースの実験
  - － 二例目：2021年のステファン・ランカの実験



# 1954年のジョン・エンドースの対照実験

- 「第二の病原体は、サル腎臓細胞の非接種培養から得られた。非染色標本で誘発された細胞変性効果は、麻疹から分離されたウイルスとは、確信をもって区別することはできなかった」



"A SECOND AGENT WAS OBTAINED FROM AN UNINOCULATED CULTURE OF MONKEY KIDNEY CELLS. THE CYTOPATHIC CHANGES IT INDUCED IN THE UNSTAINED PREPARATIONS COULD NOT BE DISTINGUISHED WITH CONFIDENCE FROM THE VIRUSES ISOLATED FROM MEASLES."



- JOHN F ENDERS, 1954

# エンダースの遺産

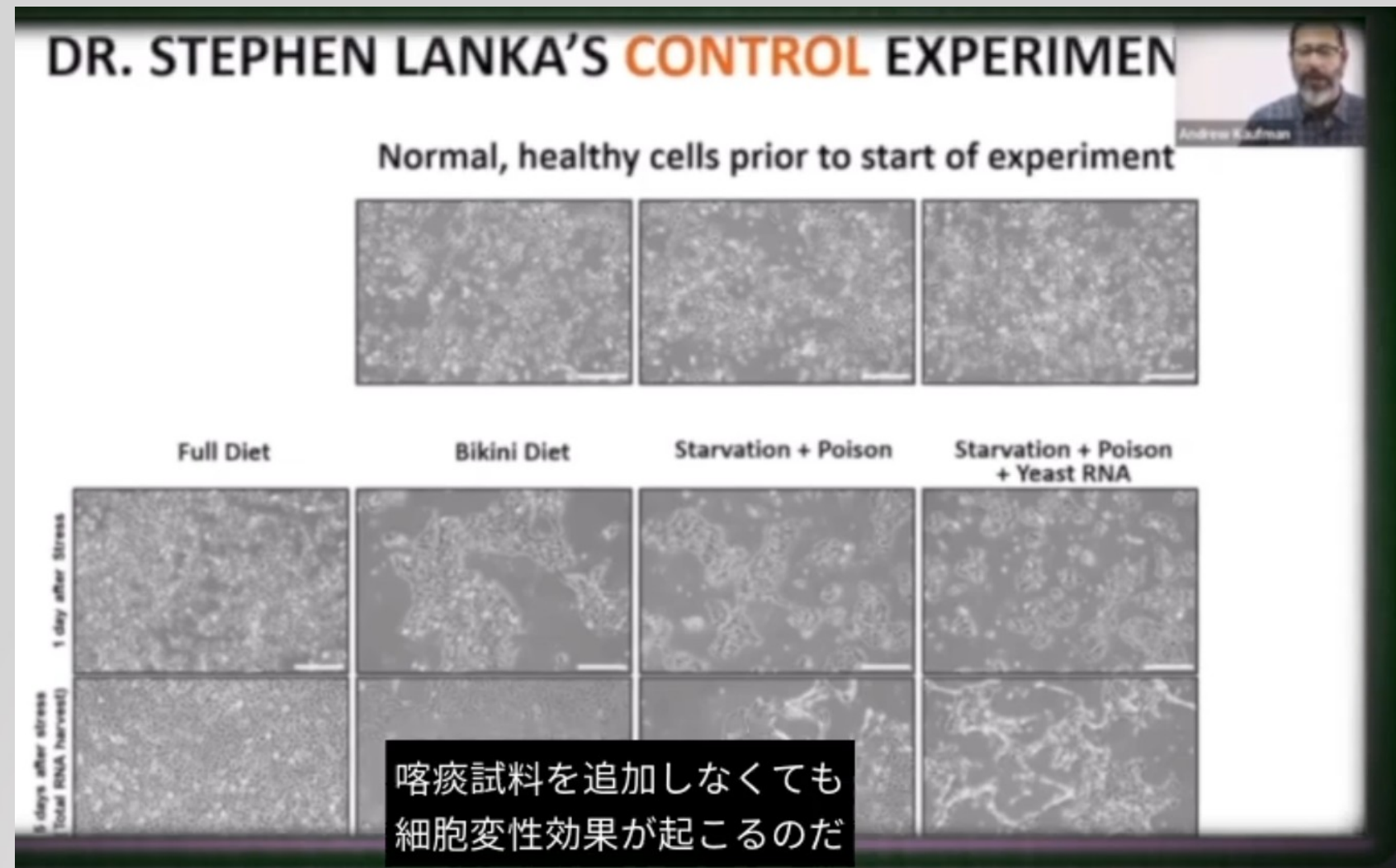
- 現代のウイルス学における「分離」（実は混合）は、サル腎臓細胞に「ウイルス」を混ぜ込んだエンダースの手法によるもの。
- しかし、エンダースが対照実験で「何の違いもないよ」と言ってるのに、そこは都合よく無視し、エンダースの手法を使って「ウイルスの働きによって、サルの腎臓細胞が崩壊した！」と言いつけている。





# 2021年のステファン・ランカの対照実験

- 何の違いもないとの結論



# 再度

- ウイルス学では、サルの腎臓細胞等の「培地」に「ウイルスなるもの」を混ぜると、細胞が崩壊して、ウイルスが増え、ウイルスの写真が撮れるとする。
- しかし、歴史上二例だけ行われた対照実験では、「ウイルスなるもの」を混ぜなくても全く同じ結果になる。

無から有を生み出すウイルス・マジック！  
あるいは、サルしかできないモンキー・マジック！





# ウイルスの遺伝子配列を得る

ウイルス学詐欺のもう一つの柱  
メタゲノム解析

# ウイルスのゲノム（遺伝子配列）を決定！

- 分離もしてない、ごちゃごちゃの混合物の中にある「ウイルス」のゲノム（遺伝子配列）を決定するのだという。
- この中には、人間の遺伝子、各種バクテリアの遺伝子、サルの遺伝子、他の「ウイルス」の遺伝子があるのに、どうやって対象の「ウイルス」の遺伝子を決定できるの？







分離などされていない、  
ごっちゃごっちゃの中から、  
こいつの遺伝子配列だけ  
がほしいという無理難題を  
どう解決するのか？





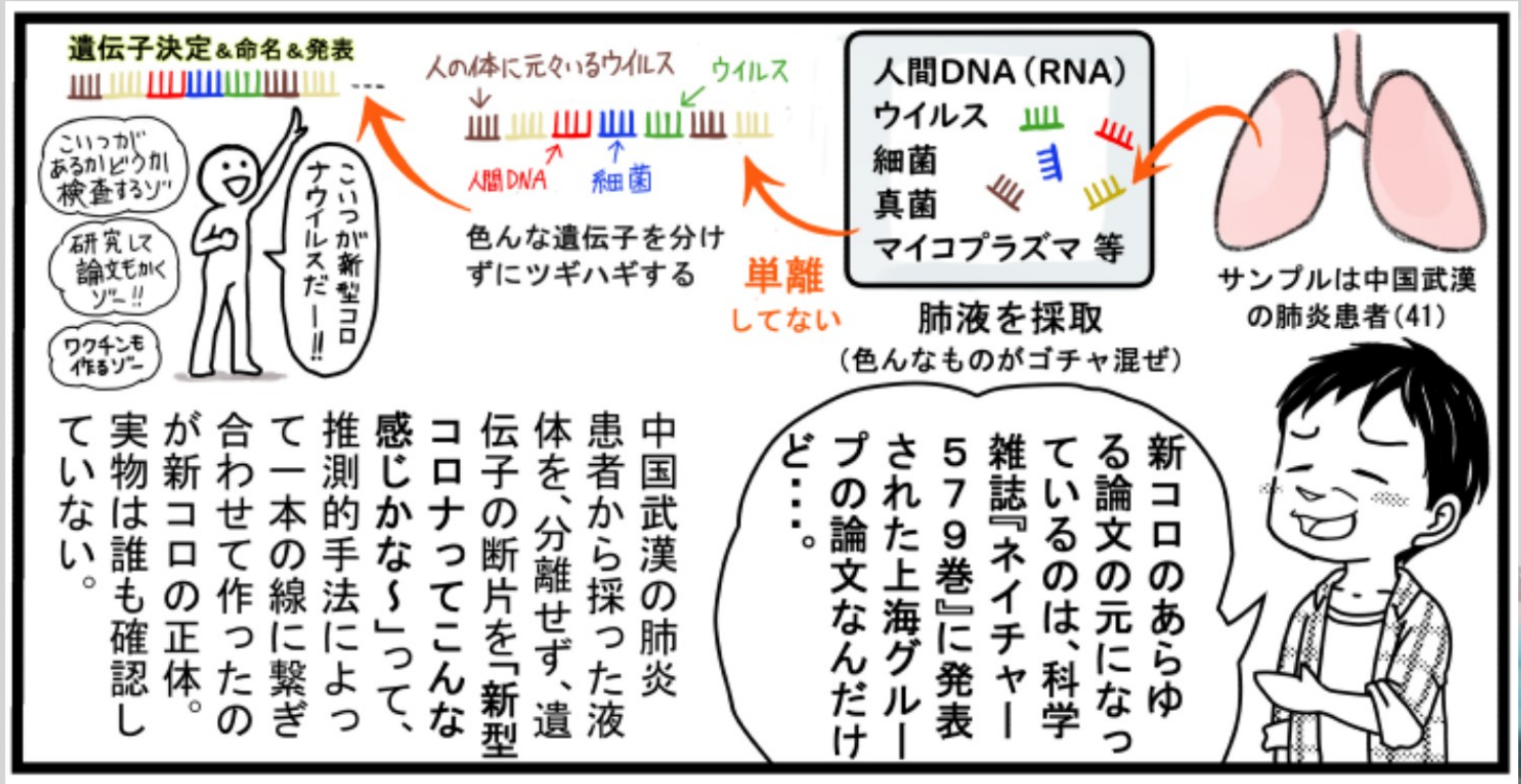
# ショットガン・シーケンシング法

- 遺伝子配列は、TGCAの組み合わせ
- ごちゃまぜの混合物からてきとーに「遺伝子断片」をとってくる
- 例えば、TTGCAAGAT, GAGGATCCTAGC, AATGACGTATCAなどの短いもの
- 当然、「何の遺伝子断片なのか」はわからない。ヒトなのか、サルなのか、ウイルスなのか
- これをコンピュータでつなぎ合わせるが、数千万通りある

- それを、コンピュータがうまく「ウイルス」であるように約3万の遺伝子配列を作り上げる
  - ーって、無理無理
- 実際には、「ウイルスの遺伝子配列はこうであろう」というリファレンスを使う
- つまり、塗り絵の下書きにモザイクのように遺伝子断片をはめ込む
- 「ウイルス」の遺伝子配列のできあがり
- つまり、「ウイルスの遺伝子配列」とは極めて恣意的なもの



# あきさんの漫画





# もう少しわかりやすくすると。。。。

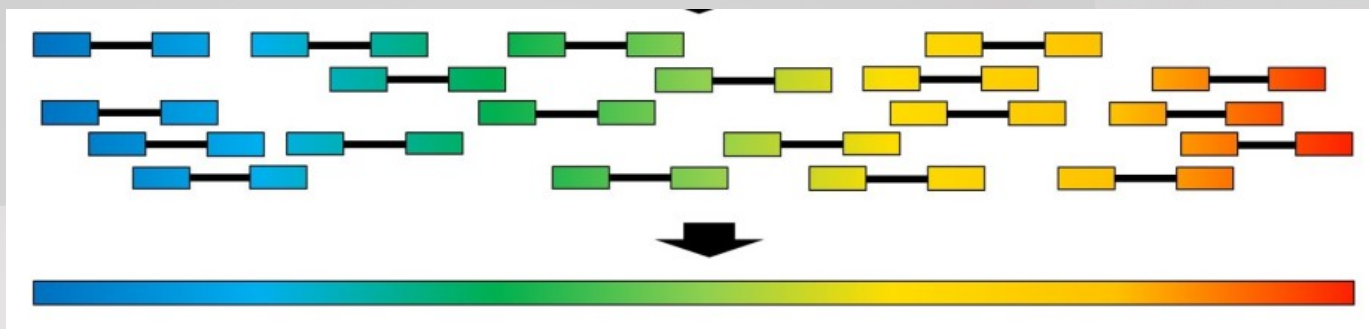


これがウイルスのはず！  
分離などできてないけど

ゴミの山全部をシュレッダーに  
かけ、バラバラの断片にする



適当に組み合わせて数千万通  
りの中から、コンピュータがウイ  
ルスの配列を選定する

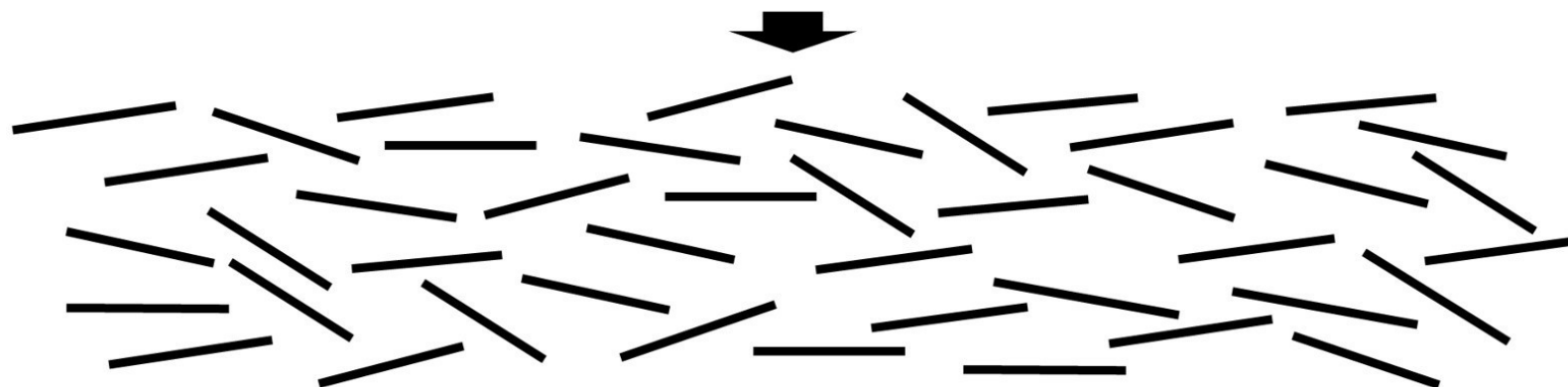




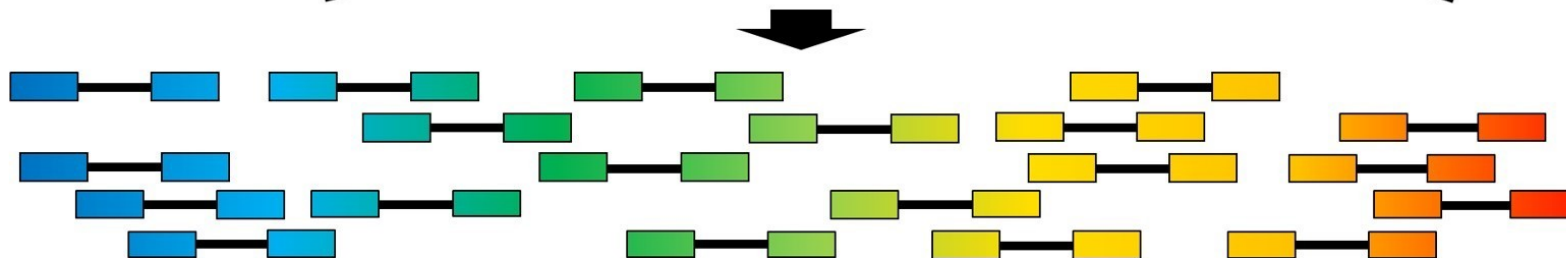
# ウイルスがいるのではなく ソフトウェアが恣意的に選択してるだけ



未読の  
ゲノムを複製



未読ゲノムを  
「ショットガン」  
で細かく裁断



ゲノム断片の  
末端を  
解読して配置



解読したゲノムを  
再構築

# 複数の研究者が行うと。。。。

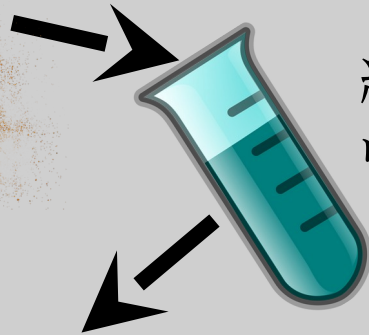
- どういうわけか、どの研究者においても、最初に出してきた「新型コロナウイルスの配列」に良く一致するものが出てくる。
- ちょっとだけ違うのは「ウイルスが変異したからだ～」と言ってる。



# この「ウイルスの配列」なるものも科学的に無効

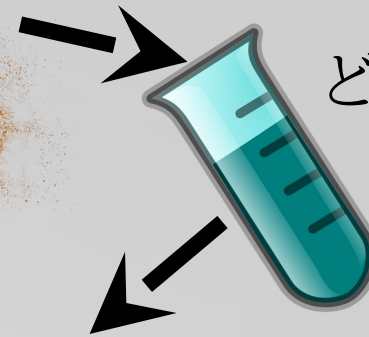
- 対照実験（ウイルスを入れない方）ではどう異なるかを検証していない

患者の体液

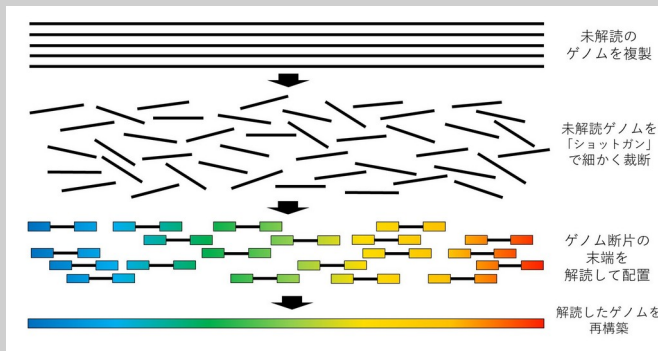


細胞崩壊して  
ウイルス大発生

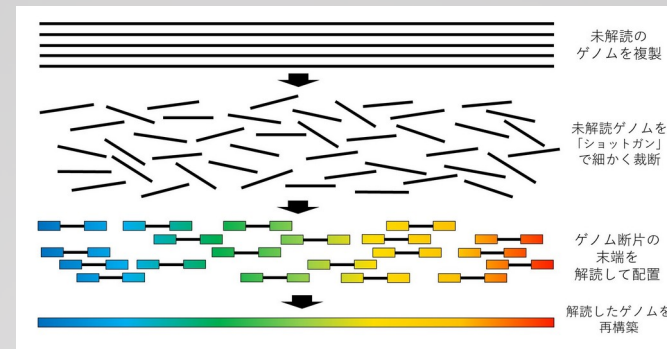
健康人あるいは何も無し




どうなるの？



ウイルスの遺伝子配列が得られた！



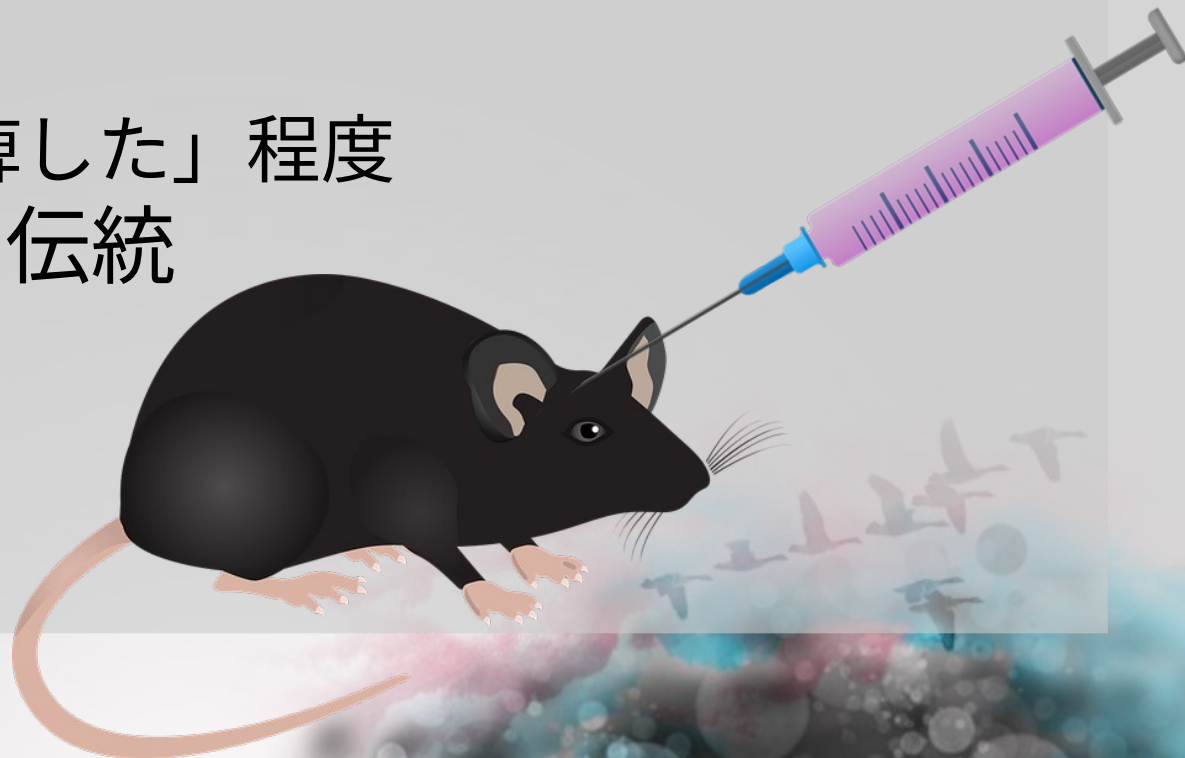
どうなるの？



この「ウイルス」が  
本当に病気の原因なのか？



- 分離、いや不純物だらけの混合ウイルスを使って病気になる実験を、「ウイルス学者」はしない。
- サルの腎臓の細胞崩壊が「病気になる証拠」だから。
- 仮にやったとしても。。。
  - 「ネズミの脳に注射したら麻痺した」程度
- それがニセ科学ウイルス学の伝統



# 1910年（電子顕微鏡のなかった時代） のフレクスナーとルイスの実験で

- ポリオウイルスの病原性を証明！
  - － ポリオ犠牲者の脊髄を砕いたものをサルの脳に注射
  - － 麻痺が起こった！→ポリオウイルス病原性の証明！
  - － さらにそのサルの脳を砕いて別のサルの脳に注射
  - － 麻痺が起こった！→ポリオウイルス感染性の証明！

このようにして、ウイルスの病原性と感染性を「証明」するのが、ニセ科学「ウイルス学」の伝統。現代の「ウイルス学者」も同じようなことをしている

# 新型コロナウイルスの場合の実験

- 4匹のサルに「ウイルスが大量増殖した」混合物を比較的大量に無理やり飲ませる、霧噴霧で良いはずなのに。
- しかし、1匹しか肺症状は起こさなかった。



これで、このウイルスが「病気の原因」で  
あることが証明され、ウイルス  
の写真と遺伝子配列が得られました



本当？



# 遺伝子配列の利用例：PCR検査

- でっちあげの遺伝子配列の数百分の1ぐらいを取り出して、それをPCRプライマーとして、対象者にあるかを検出する
- 「遺伝子配列すべてが一致するウイルス」でなくても、一部分が一致する「何か」があれば、陽性となる。「コロナ感染者」として隔離。

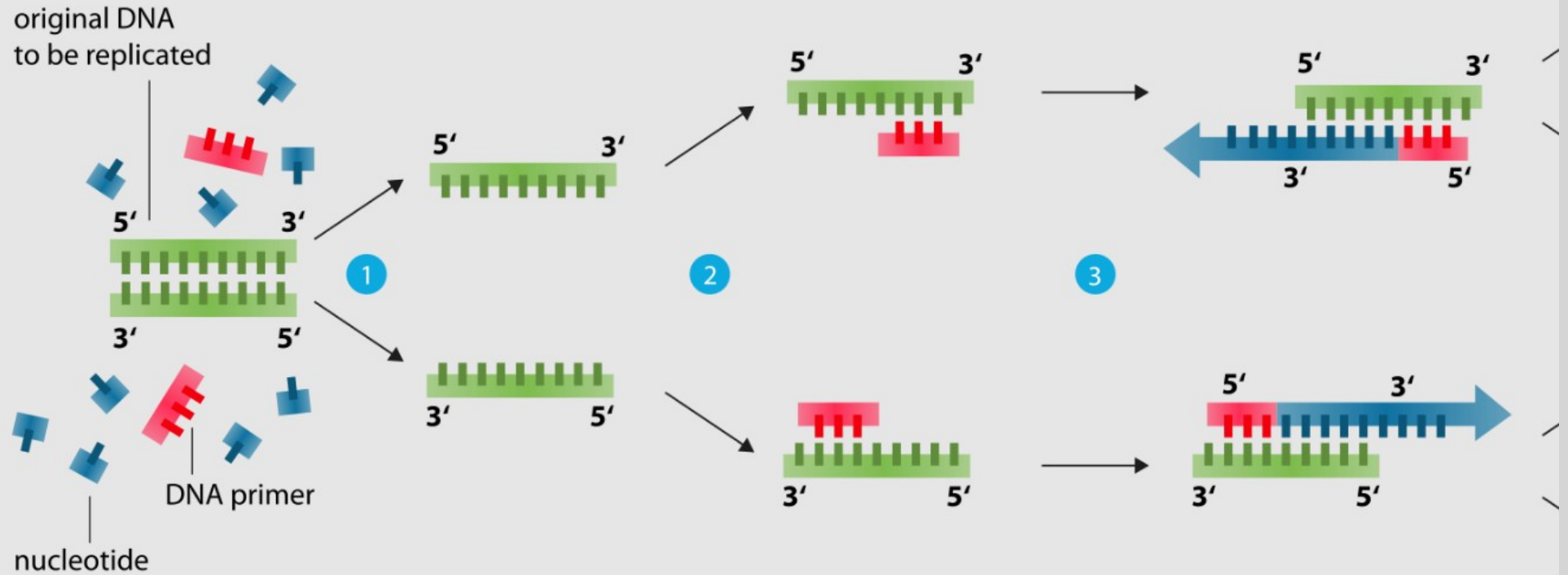


# もう少しわかりやすく説明すると

- ウイルスの遺伝子配列がある（約3万）  
TGCTAGCCTGACAGACTGGATTAGCAAGGTAAC.....
- この中の一部分、数十の配列をつくる。これを「プライマー」と呼ぶ「TGCTAGCCTGACAGA」など
- このプライマーに一致するものを検査対象の人の体液から探す
- 見つかったら、これを「増やす」
- たくさん増えたと、検出できるようになる



# Polymerase chain reaction - PCR



- 1 **Denaturation** at 94-96°C
- 2 **Annealing** at ~68°C
- 3 **Elongation** at ca. 72 °C

# 問題としては

- そもそもウィルスの遺伝子配列（約3万）がデタラメ
  - その一部分のプライマーも、もちろんデタラメ
  - そのプライマーに一致すれば何でも増幅してしまう
  - 増幅できさえすれば、「ウィルス発見！」
- 
- そもそも、このプライマリーに一致するのって、地球上でこのウィルスだけなの？





# WHOの出していた配列はヒトに一致

## Bombshell Evidence: COVID RNA Base Pairs are Identical to Chromosome 8 Human DNA

Posted on August 22, 2020 by ourgreaterdestiny

One of the WHO primer sequences in the PCR test for SARS-CoV-2 is found in all human DNA



By Fauxlex – Apr 06.20

### Primers and probes

Name	Sequences (5'-3')	Length (bases)	PCR product size	Ref.
<i>RdRp gene / nCoV_IP2</i>				
nCoV_IP2-12669Fw	ATGAGCTTAGTCCTGTTG	17	108 bp	1
nCoV_IP2-12759Rv	CTCCCTTTGTTGTGTTGT	18		
nCoV_IP2-12696bProbe(+)	AGATGCTTGTGCTGCCGGTA [5']Hex [3']BHQ-1	21		



# しかも、サイクル数によって 結果が異なる

- 1サイクルで2倍になる  
2,4,8,16,32...と増幅していき、32回だと40億倍
- 低あるいは高サイクル数は信頼性が低い
- Stephen A. Bustin（世界的に著名な量的PCR専門家）
  - 20台から30台のCQ値を目指すべきであり、35を超えるCQの結果の信頼性には懸念がある
- 日本や米国のサイクル数は40以上
  - 仮にウイルス配列が正しく、プライマーが正しくとも信頼できない

# PCRにも対照実験がない

- 病人は陽性になる。健康人はどうなる？
- 実際に、一人の人を何度も検査すると陽性・陰性・陽性・陰性と変化したりする。





# ウイルス学のインチキまとめ



- 「分離」など一度もしたことない。実際は混合。言葉を勝手に再定義して人々を騙す。
- 「ウイルスによる細胞崩壊」は対照実験がされたことがない。過去二例だけ。崩壊は「ウイルス」によるものではないと、この二例で確認されている
- どういうわけか、人間の肺細胞は崩壊しないので、染色体異常のサル腎臓細胞を使う
- 技術は十分にあるのに、本来の意味の分離をしないのはなぜ？
- 「ウイルスの写真」は、何の写真なのかわかったものではない。

- 「細胞崩壊」以外、病気原因の証拠はない。実験したこともない。やっても、マウスの脳みそに注射。
- 「ウイルスの遺伝子配列」はでっちあげ。これも対照実験がない。
- したがって、PCRのプライマーもでっちあげ
- ウイルス全体でなく、ごく一部でしかないプライマーに一致する遺伝子配列は地球上に山ほどあるはず
- PCRのサイクル数が高すぎて信頼性がない
- PCRも対照実験を一切しない



# ウイルス学は、ウイルスが病気の原因である証明を、初めから放棄している


- 証明には、真の意味での分離が必要。それで初めて感染実験ができ、病原性の証明ができる。
- それをせず、ひたすら遺伝子配列の取得をしている。病原性の証明とは無関係。



再度、ウイルス学は科学ではない。  
あるいは、見たこともないユニコーンの  
存在をインチキで信じ込ませる詐欺





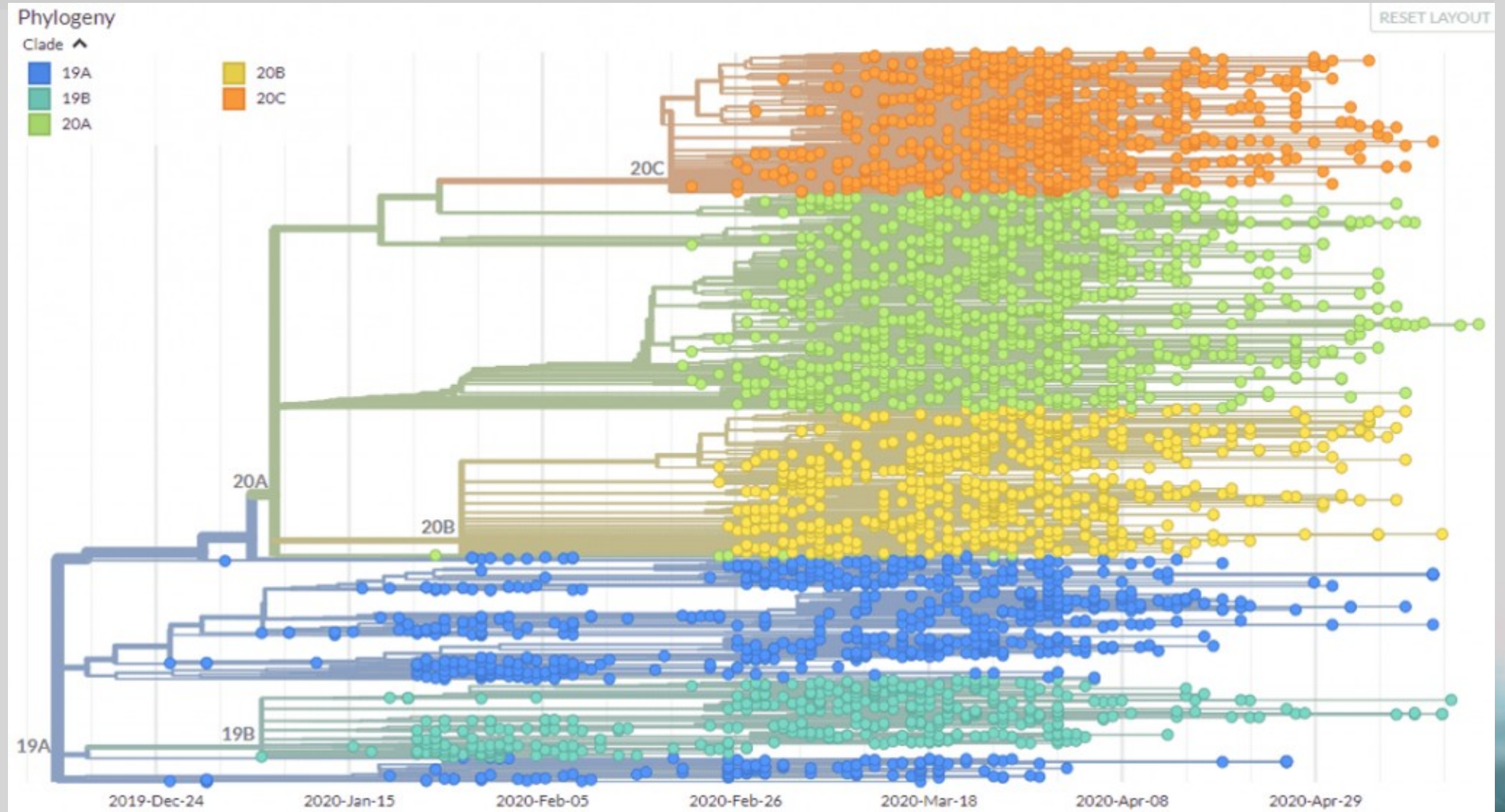


# インチキなウイルス学者が叫ぶ 「人工ウイルス」説

# 人工ウイルスだと叫ぶ人



# 新型コロナウイルスの変異が不自然だから



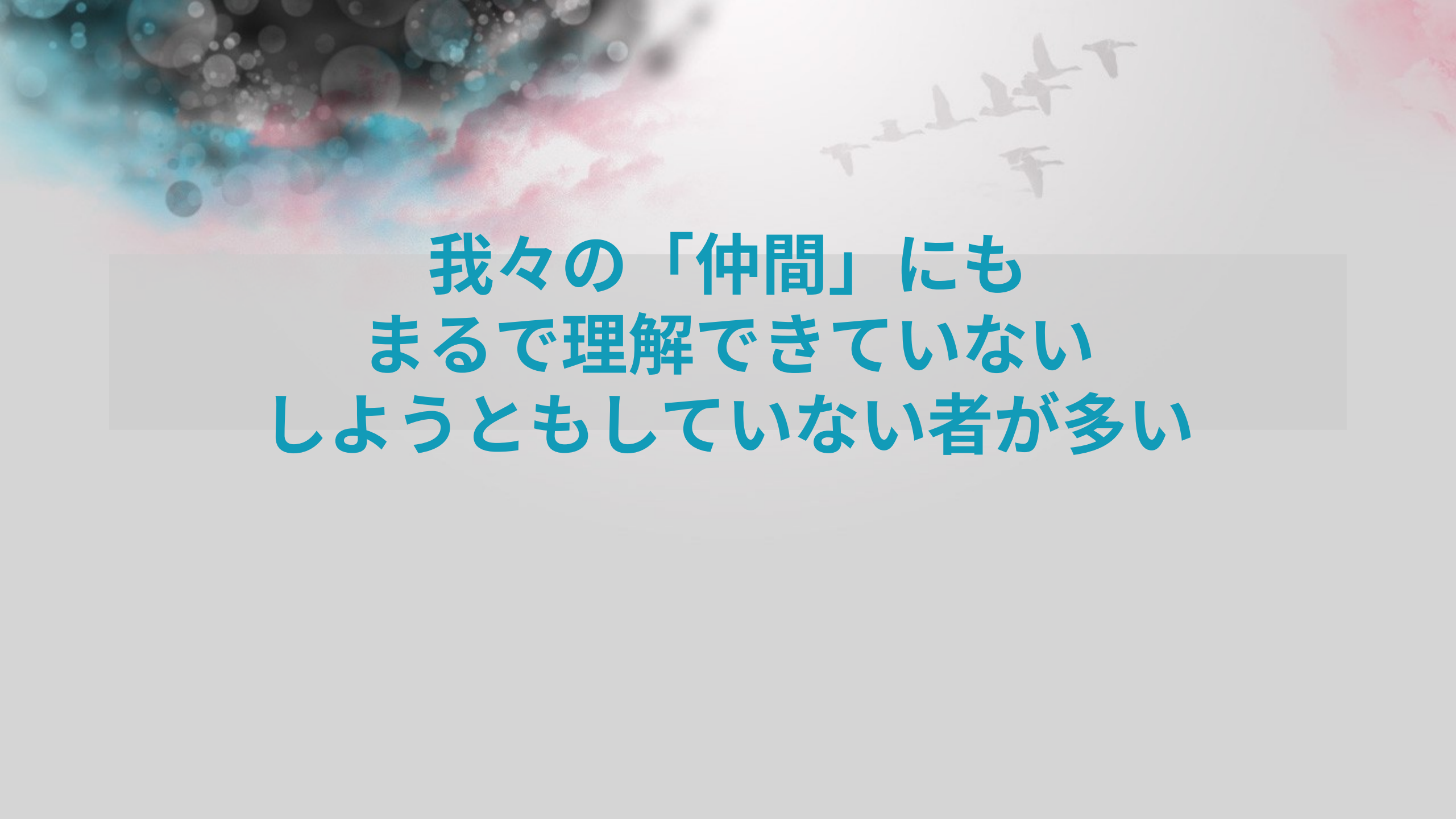
# 遺伝子配列がでっちあげなので 変異が不自然なのは当たり前

以上

人工であれ、何であれ、ウイルスがいて  
病気になるという戯言を、宮沢はばら撒いている





The background features a soft, artistic illustration. On the left, there are colorful bokeh circles in shades of teal, blue, and pink. On the right, a flock of birds is shown in flight, silhouetted against a light, hazy sky. The overall mood is contemplative and artistic.

我々の「仲間」にも  
まるで理解できていない  
しようともしていない者が多い

# 新型コロナワクチンには反対しているのに ウイルス学のインチキをまるで理解できていない

- それ以外の、はしかワクチンなどは効果があるという人
- 新型コロナは恐ろしい病気で、イベルメクチンで死亡率が下がるなどと流布する人
- 自然の新型コロナウイルスはなく、人口ウイルスだと流布する人

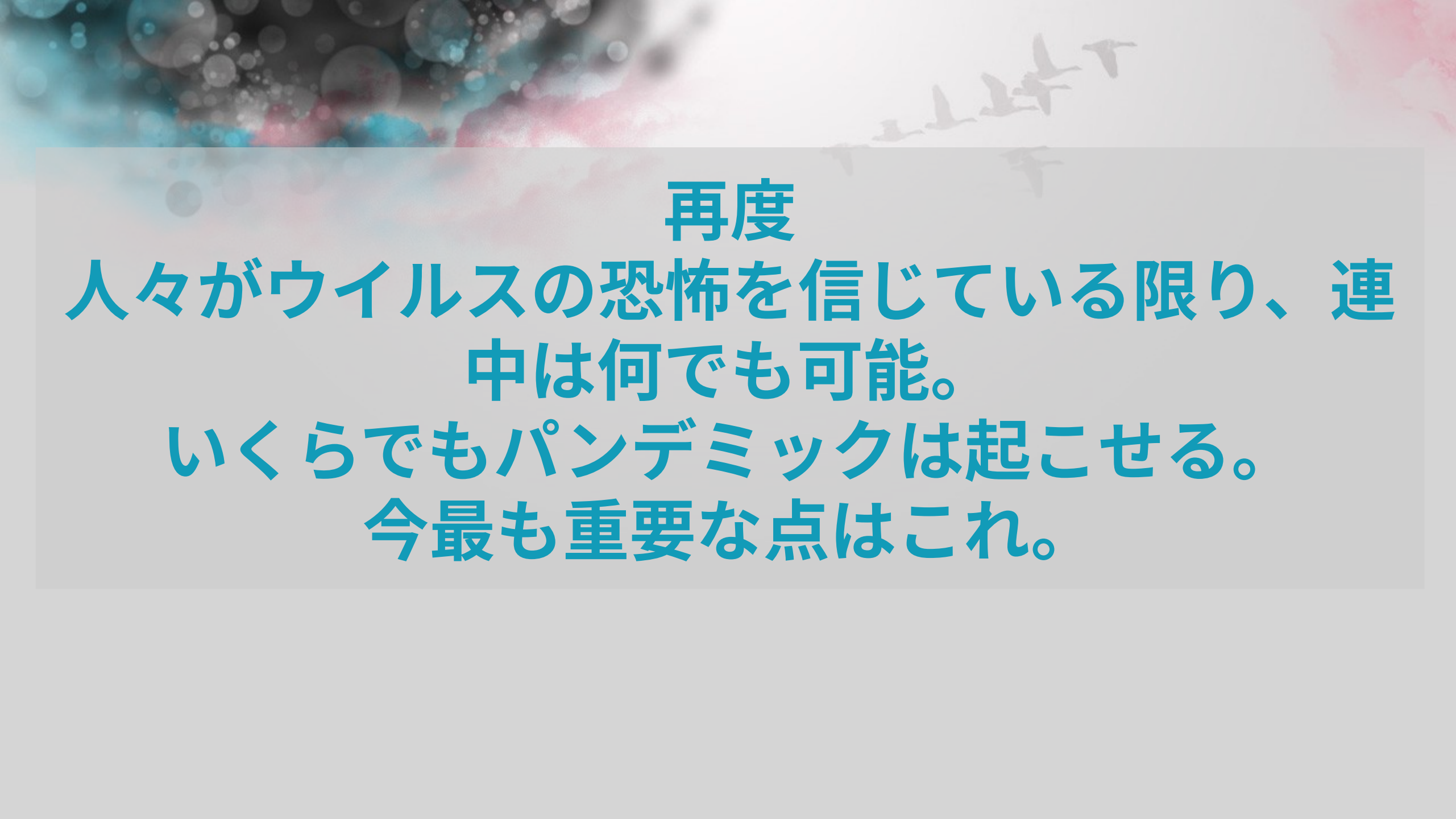
まるで基本ができていない  
医者・学者の場合なら、自らの洗脳を疑うことができない



パンデミック条約、IHR改正、憲法改悪  
以前の問題：

恐怖による支配が可能になる理由は  
「ウイルスがいて病気になる」というウソ  
を皆が信じているから

ここを破壊しない限りダメ  
でっち上げパンデミックをいくらでも作れてしまい  
人々は恐怖して従ってしまう

The background features a soft-focus bokeh effect with circular light spots in shades of teal, blue, and pink. In the upper right corner, a series of small, dark silhouettes of birds are shown in flight, trailing off towards the right edge.

再度  
人々がウイルスの恐怖を信じている限り、連  
中は何でも可能。  
いくらでもパンデミックは起こせる。  
今最も重要な点はこれ。